



AUE News

2011年7月15日

第 20 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

- ごあいさつ
- 行事予定(7月16-31日)
- トピックス
 - ・ 事務職員採用説明会
 - ・ 岐阜聖徳高校など本学見学
 - ・ たのしいものづくり講座
 - ・ 公開講座「日本語を教えたい人のための第一歩」
 - ・ 公開講座「油彩画の基本」
 - ・ 古書のリサイクル配布会
 - ・ 公開講座「音読で味わう樋口一葉」
 - ・ セタロード
 - ・ 学食でビアホール
- ・ 第4回サイエンス・カフェ
- ・ 池田勝昭名誉教授が著作寄贈
- ・ 松田学長が施設調査
- ・ 連携公開講座「親子で学ぼう！経済のしくみ」
- ・ 先生をめざす人のための合同説明会
- ・ 温度計ステッカー作成
- ・ クリーン作戦
- ・ 本学と愛知県教育関係者懇談会
- ・ 安全衛生教育講習会
- ・ トヨタ系企業との意見交換会
- ・ 災害ボランティア研修会
- お知らせ・報告・投稿
- ・ 催しもの案内

ごあいさつ

2010年10月1日に「AUE News」第1号を発刊して、早くも20号を迎えました。月2回の発刊については、取材・編集・原稿作成・部内チェック・発刊の流れにおいて関係メンバーの協力で十全を期するようしております。

毎号の準備は実務を担う専門職員としてはけっこう大変な課題ですが、読者の皆様に本学が生き生きと動いている姿を少しでも豊かに、はやくお伝えしたいと取り組んでおります。

異動された諸君からも「毎号読んでいます」との声をいただいております。

今後も、このニュースをご愛読いただきますよう、お願いします。

広報部会長 折出健二

行事予定(7月16-31日)

- 19日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
共通科目専門委員会 (16:40～ 第三会議室)
- 20日(水) 教育創造開発機構委員会 (9:30～ 大学会館中集会室)
教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)
幼稚園教員資格認定試験実施委員会 (16:40～ 教務課)
- 26日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 27日(水) キャンパストーク (13:30～ 大学会館大集会室)
キャンパスクリーンデー (15:30～ 大学構内)
- 28日(木) 教育実地研究専門委員会 (15:00～ 第五会議室)
- 29日(金) 男女共同参画委員会 (15:00～ 第三会議室)
- 30日(土)31日(日) オープンキャンパス

トピックス

事務職員採用説明会(7/1、2)



本学は東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験の第一次試験合格者を対象にした、職場訪問・職場説明会を7月1日(金)、7月2日(土)の2日間、午後2時から約2時間実施した。

当日は、鏡山典子人事課長のあいさつ、丸山祥弘人事課課長補佐の本学概要説明、あらかじめ寄せられた質問についての応答という流れで進み、その後に若手職員との交流及び個別面談を行った。1日は平日であったことから、本部棟及び学生サポートセンターを案内する計画をしたところ、ほとんどの出席者が参加した。

若手職員との交流では、近年、本学職員に採用された総務系、財務系、学務系の職員が対応し、出席者は、本学に就職を決めた理由や職場環境についてのかなり具体的な質問をするなど活発な交流が続き、その後の個別面談にも長い列ができ、最後まで真剣なまなざしで職員の話の聴いていた。

なお、両日の出席者は、1日が16人、2日が87人だった。

(人事課課長補佐 近藤厚子)

岐阜聖徳学園高校などが本学見学(7/1、4、6)

岐阜聖徳学園高等学校の生徒が7月1日(金)午前、本学を見学に来た。

一行は、教員志望の1年生10人と2年生27人、付き添いの教員2人の計39人。午前10時30分に本部棟前にバスで到着、出迎えた法人運営課職員の案内で第五会議室に入室。大学の概要、入試、カリキュラムについて、それぞれ総務課、入試課、教務課の職員から説明を受けた。その後、附属図書館へ移動し、情報図書課の職員から閲覧室やAVコーナーを案内され、興味深そうに見学していた。



7月4日(月)午前には愛知県立成章高等学校の生徒240人と教員6人の計246人がバス6台を連ねて来学。講堂を会場に、大学概要、入試、カリキュラムについて職員の説明を聞いた後、スクリーンに映し出された学内施設の紹介映像を視聴した。その後、2班に分かれ、文系の3クラスは次の見学先の大学へ向けて出発、理系3クラスの110人は学食に移動して昼食をとり、学内を自由に見学。附属図書館や共通棟などを真夏の日差しにも負けずに歩いて見て回り、キャンパスの雰囲気を楽しんだ。



同日午後には、県立豊田高等学校PTAの113人と教員2人が来学。第二共通棟421の階段教室を会場に、大学概要、入試、就職状況の説明に耳を傾けた。その後、附属図書館と生協を見学。強い日差しの下での施設見学とあって、生協では冷たい飲み物を味わいながら、一服。カフェテリア方式の食堂やコンビニスタイルの売店を見て「広いし、大学生活に必要なものがそ

ろっていて便利」と感想を口にしていた。

また、7月6日（水）には、県立岡崎北高等学校のPTA90人と教員3人が来学。第二共通棟431の階段教室での大学説明に、大学案内にメモを取るなどして、熱心に聴き入っていた。その後、附属図書館、希望者は自然科学棟屋上の天文台を見学。およそ半数の保護者が天文台に上がり、天体望遠鏡やドームの稼働を見て歓声を上げた。「一般公開があるなら、子どもと一緒に参加したい」との声も聞かれた。



たのしいものづくり講座(7/2)



子どもたちを対象にした「たのしいものづくり講座」が7月2日（土）、教育実験実習棟で行われた。

同講座は技術教育講座が主催し、今年で10回目。今回は、本学ホームページや刈谷市や知立市の広報紙などで募集した親子連れ8組が参加し、かいわれ大根、もやしの種まきに挑戦した。

技術専攻の学生たちが指導して、子どもたちは紙皿に穴を空けてティッシュペーパーを敷き、水に浸して栽培容器を作成。そこに、かいわれ大根の種をまいて、光が入らないようにフタをしてアルミホイルで覆った。家に持ち帰ってからの栽培の方法や収穫の仕方なども学んだ。同じように、もやしの種まきにもチャレンジ。さらに、スーパーのレジ袋を利用して、土で育てる方法も体験した。

毎年参加しているという知立市の親子は「学生さんたちが丁寧に指導してくれて、子どもたちとの距離が近いのがいい。今年も開講を楽しみにしていました」と作業に取り組んでいた。

種まきの合間には、バーベキューの火起こしにもチャレンジ。太田弘一教授が「人類が最初に得た技術の一つが、火を使うことでした」と話し、「炭に火が付いたら、うちわなどで一生懸命あおいで！」などとコツを伝授。お昼には屋外でバーベキューを楽しみ、学生や教員と参加者の親子連れが、うち解けた雰囲気の中で話を弾ませていた。



公開講座「日本語を教えたい人のための第一歩」(7/2、9、16)



外国人に日本を教える方法を解説する一般向けの公開講座「日本語を教えたい人のための第一歩—外国語が話せなくても大丈夫。日本語だけで日本を教えよう!—」が7月2日（土）から毎週土曜日、3回シリーズで第二人文棟で開講された。

日本語教育に初めて関わる人、日本語教育に関心はあっても外国語の能力に不安があってスタートできない人を対象に、一般的に行われている日本語だけで日本語を教える方法を上田崇仁准教授（日本語教育）が

指導する。

第2回の9日（土）には、10人が参加。「外国人に数字を教えるとき、何から教えるのがいいか」という上田准教授の問いかけから始まり、「カレンダーが読めるようになるよ!とすれば、日にちと一緒に曜日、今週、来週…と展開できる」など具体例を挙げて紹介。ほかにも、「教材作りは、日本語だけで日本語を教えるための重要な武器」



「体を動かしながら使う小道具は 100 円ショップなどでそろう」「日本語を教えるとき、その日本語がどういう場面で使えるかをイメージするのが大切。自然な流れになるように」など、さまざまなノウハウを伝授した。

名古屋市港区から参加の女性は「近所に外国人の人が多く住んでいるので、日本語を教えることに興味があります。構えて教材をそろえなくてもいいことが分かった」と、日本語教育へのハードルをちょっぴり乗り越えたようだった。

公開講座「油彩画の基本」(7/2-9/3)



一般を対象にした「油彩画の基本（静物）」が 7 月 2 日（土）午前、美術実習棟で開講された。

松本昭彦教授（美術教育）が毎週土曜日に 6 回にわたり、油彩画の基本的な描き方と道具の使い方を指導する同講座には、小学 4 年生から 60 歳代までの 11 人が参加。①デッサン・地塗り②明暗計画③荒描き（下描き）④中描き⑤上書き（本描き）⑥仕上げ、を経て、初めての人でも油彩画を完成させることができるというもの。特に、2 回目の 9

日（土）には「明暗計画」という今まで技法書などでも扱われてこなかった重要なプロセスに挑戦。デッサンした絵の中の陰影を 10 段階にとらえて、その中間段階の明るさをグレー系、またはブラウン系の油絵具でキャンバス全体に塗り、それより明るく見える部分は絵具を布などで拭き取り、逆に暗い部分は濃い色を描き足すことで、全体の陰影を浮き上がらせるという技法。

松本教授は「ルネッサンスからバロックの絵がしっかりしているのは、この技法があったから。限られた色で描かれたころには、当たり前に使われていましたが、産業革命以後は絵の具の色がたくさん作られるようになり、色で表現することが主流に。明暗の差で構成をしっかり作っていくことができます」と説明。受講者とキャンバスで実践すると、静物が浮き立って見える様子が実感され、「なるほど～」と感心する声が上がった。

受講生の刈谷市の 60 代の男性は「前から油絵を描いてみたかった。ここでは最初から丁寧に教えてもらえるのがいい。最終回には作品を完成させたい」と意欲を語った。



古書のリサイクル配布会 (7/5-15)



本学附属図書館アイ♥スペースで 7 月 5 日（火）～15 日（金）、「古書のリサイクル配布会」が開催された。

附属図書館では増え続ける蔵書を処分するため、本の有効活用にもなるようにと、約 3 年ぶりに同配布会を実施。今回は、図書館に複数冊ある複本など約 1 万 6000 冊を処分することになった。配布会前に古本業者が約 5000 冊を買い取り、残り 1 万 1000 冊が配布会に出品された。

5 日の開館と同時に、教員や学生が訪れ、スペースにぎっしりと並べられた約 8000 冊から気になる本を一冊ずつ手に取って吟味。本の種類は教育関係の書籍をはじめ、辞書、文学全集、旅行ガイドブック、小説、洋書などさまざまで、中には持ちきれないほどたくさん本を抱え、何度かに分けて持ち帰る姿も見られた。多くの人が会場の一角に置かれた募金箱に寄付をしていた。この募金は教育研究基金として、学生の教育・研究に役立てられる。

稲垣敏之情報図書課長は「できれば毎年古書の処分をしたいのですが、係も日常業務が忙しくて久々の開催。学内外の多くの方に利用していただきたいですね」と話した。

公開講座「音読で味わう樋口一葉」(7/6、13、20、27)



本学の公開講座「音読で味わう樋口一葉」が7月6日(水)、第一人文棟2階哲学・法経社共同実習室で開講された。

一般を対象にした4回の同講座は、樋口一葉がその短い生涯で制作した小説作品を音読し、明治という男社会を刺し貫く女の眼について読み解く。渡辺和靖特別教授(社会科教育)の指導で、一般の10人が参加。

6日の第1講には、8人が出席。一葉の短歌「たけくらべ」を取り上げて、「単独で扱うのではなく、他の作品への展開や関係をさぐるようにみていきます」と渡辺特別教授がまず音読。受講生たちがそれに続いた。

渡辺特別教授は「平凡なありきたりの表現からだんだん主体的になってきている」、小説作品については「短歌の発想が生かされ、処女作には短歌の表現がちりばめられている。これが重要で、微妙な内面を描くことは、それ以前の明治にはなかった」などと解説。さらに、「短歌的発想の弱点もあり、主人公の心情の変化をテーマにしているのは、一葉ならでは」と指摘した。

音読の効果を「音と目で、複雑なイメージを膨らませることができる。言葉の音と意味がオーケストラのようにね。(講義の)中身が濃いから、忙しいですよ(笑)。声を出すことで、アンチエイジング、ストレス解消にもなる。中身を理解していくと読み方も変わってくる。昔の人はみな、声を出して読んでいたものですが、今は演歌の時にだけ見ることができますね(笑)」とユーモアを交えながら、受講生と共に一葉文学の世界を丁寧に読み解いていった。



七夕ロード(7/6-8)



七夕にちなんだ竹を使ったアーチ「七夕ロード」が7月6日(水)～8日(金)、第一共通棟北側にお目見えした。

七夕ロードは、学内の環境を整備する「エコキャンパス 竹プロジェクト」の一環。本学内に数ヶ所ある荒廃した竹林を整備し、竹林の再生を目指すとともに竹の有効利用を考えていくもので、賛同する学生や教

員、学外者など計20人余が参加して行われた。

プロジェクトチームの面々は、4日(月)に美術実習棟南側の竹林で竹を採取、竹の先端を麻縄などで結んで高さ4メートル、幅3メートル50センチのアーチを制作し、6日に設置。アーチの入り口には、短冊とペンが用意され、学生たちがそれぞれの願い事を書き込んで、アーチに結び付けた。「教授絶対合格するぞ!」「内定がもらえますように」など、学生たちが願い事を書いた色とりどりの短冊がヒラヒラと夕方の風にそよぎ、涼感を誘っていた。



学食でビアホール(7/7、8)

夏の風物詩「ビアホール」が今年も7月7日(木)、8日(金)の2日間、午後5時から第二福利施設にお目見えした。



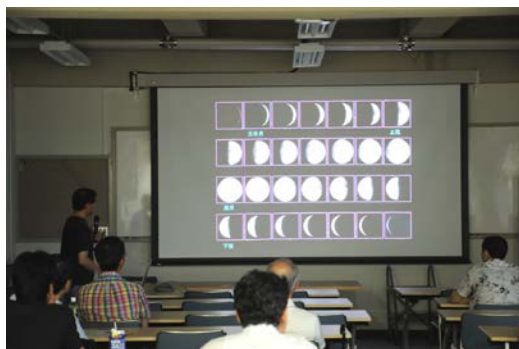
ビアホールは、生協と職員組合が共同で企画・運営する夏の名物イベントで、今年で 28 回目。800 円の入場料で普段は学食にないビールやノンアルコールビールなどが提供され、おつまみは食べ放題とあって、学生や教職員に大人気。両日で計 230 余人が来場した。

今回は、生協学生委員の学生が涼しげな浴衣姿で出迎え、ビンゴ大会開催などの演出も。8 日も打ち上げ花火や生協の商品券などの賞品を巡って会場が

沸いた。当選した 4 年生の学生は「来年、先生になります〜!」「愛教大サイコ〜!」と雄たけびを上げ、場内から大きな拍手。続いて、教員採用試験を控えた 4 年生を応援する「教採応援ビデオレター」が上映され、今春から教員になった“先輩”たちから受験アドバイス、教職員から応援メッセージが上映された。フィナーレは松田正久学長からの“生応援メッセージ”。「4 年生の人は試験頑張ってください!」と激励。さらに「大学のクールビズのシャツを作りました。活用してください。8 月からは震災の教育支援ボランティアを派遣しますが、ぜひ経験として行ってください。東北がんばれ!」と締めくくり、盛り上がりは最高潮に達し、ビアホールは無事、終了した。



第 4 回サイエンス・カフェ(7/7)



第 4 回サイエンス・カフェが 7 月 7 日（木）午後 6 時から、自然科学棟で開催された。

サイエンス・カフェは本学の科学・ものづくり教育推進関連事業の一つ。この日は七夕とあって、全国同時開催の「七夕講演会」を兼ねて行われた。朝からあいにくの雨模様だったが、学内外から 25 人が参加した。

講演会のテーマは「なぜ七夕はいつも梅雨の時期? —旧暦の話—」。澤武文教授（理科教育）が旧暦の仕

組みや、旧暦にまつわる話題を話した。かつては旧暦で七夕などの行事を行っていたが、現在は新暦で七夕の行事を行っていること、旧暦は月の満ち欠けで 1 カ月を決めること、月名の決め方には一定のルールがあること、そのため旧暦は新暦より 1 ~2 カ月遅くなることなどを、映像を使って分かりやすく説明した。

講演の後には、飲み物を手にしながらのカフェタイムがあり、参加者、教員や学生が話をして交流。その後予定された観望会は雨で中止になったが、参加者は学生による宇宙立体映像投影システム「Mi t a k a」による「3D 宇宙の旅」を楽しんだ。



池田勝昭名誉教授が著書寄贈(7/8)



本学名誉教授で、愛知新城大谷大学の池田勝昭教授が、本学の震災ボランティアに役立てほしいと、7 月 8 日（金）、著書を寄贈した。

震災被災地、宮城県での教育支援ボランティアを夏季休暇中に派遣することを新聞報道で知った池田教授が、被災者に接する際の助けになればと著作「心のケア」など 5 種類、計 30 冊を持参し、松田正久学長、都築繁幸理事に手渡した。

池田教授は「新聞で愛教大からのボランティア派遣を知り、賛同。この本でお役に立てれば嬉しい」などと思いを伝えた。松田学長は「ありがたい申し出。ボランティアの学生たちの準備に活用させていただきます」とお礼を述べた。

松田学長が施設調査(7/8)

松田正久学長は7月8日(金)午後、岩崎公弥理事とともに渋谷省一施設課長らの案内で学内施設の現地視察を行った。学長らはまず、本部棟北側から講堂の裏を通って、障害児教育棟、障害児治療教育センターを視察。講堂の壁の塗装の必要性を指摘、センターの使われていない部屋などを見て回った。

井ヶ谷荘では部屋の効率的利用を検討し、大学会館周辺では樹木の伐採を職員と協議。続いて国際交流会館の空室を視察、寮周辺ではフェンスの不備を見つけ、有刺鉄線を巻き付けるよう指示し、近くにいた作業員が即応してフェンスを補強した。

芝が盛り上がるなどして段差の整備が必要と指摘されている野球場の外野部分やサッカー場では、学長が改修方法や補修費用を渋谷課長に尋ねるなどして学生のための環境整備に思いを巡らせていた。最後に交通上の難点解消が話題になっている正門付近では改善方法を模索、現場周辺をさまざまな角度から検証していた。



この日の東海地方は平年より13日早い「梅雨明け宣言」が出され、厳しい暑さとなったが、学長らは3時間余の間、ほぼ歩き詰めで、およそ数キロメートルを“踏破”。学長は「普段より数千歩多く歩いたが、現場を見ないと分からないことが多く、現地調査は必要」と話していた。

連携公開講座「親子で学ぼう！経済のしくみ」(7/9、16)

7月9日(土)午後名古屋生涯学習推進センターにおいて、連携公開講座『親子で学ぼう！経済のしくみ』を開催しました。当日は6組の小学生の親子の参加があり、東京証券取引所グループCSR推進部の町田貴子氏より、「会社ってどうやって作るの？—企業と株式市場の役割—」をテーマに株式会社の仕組みについての講義と、株式投資ゲーム「ブルサ」による体験型学習を行いました。講義は小学生の児童が積極的に参加できるように工夫されており、わかりやすく、かつ、充実した内容となっております。株式投資ゲーム「ブルサ」による体験型学習では、経済に関する様々な出来事(ニュース)が起こる中で、それらの出来事に基づいて投資(株取引)を行うことで、経済的なものの見方、考え方を養うことを目標に行いました。ゲーム教材による学習は親子で相談しながら楽しく学習することができ、その一方で「投資は自己責任であり、最終的な判断はそれぞれ自分で行う」ということから、親子でも結果に差が出る



ことになりました。



受講者からは楽しく、かつ、わかりやすく有意義であったと大変好評で、もっと時間をかけて行いたい、次はもっとうまくできるようにしたい、という意見を聞くことができました。また、今回の講座は翌10日(日)の中日新聞朝刊で取り上げられ、講義内容や参加者の感想などが紹介されました。

本講座は2回構成で、次回は7月16日(土)に全国銀行

協会企画部広報室の青木久直氏より、「銀行って何だろう？―世の中のお金の流れと銀行の役割―」というテーマにて講義を行うことになっています。教育大学である本学と経済界（東京証券取引所グループ、全国銀行協会）、行政（名古屋市生涯学習推進センター）による産学官連携による講座として、さらに充実し、発展させていくことが期待出来ます。

（地域社会システム講座 水野英雄准教授）

先生をめざす人のための合同説明会(7/9)



入試説明会「中部の未来育成塾 先生編 先生をめざす人のための合同説明会」が7月9日（土）午後、名古屋市中村区の「ウインクあいち」で開催された。

説明会では、中部地方の教員養成系の7大学出展し、各ブースで入試担当者が受験生の質問に個別に答えた。この日の来場者は145人で、そのうち本学ブースを訪れたのは約40人。質問内容は、受験の際の指定教科や、入学して取れる免許、就職状況などで、対応に当たった安達成人入試課係長は「ほとんどが本学を志望

する受験生で、かなり込み入った質問が多かった。真剣に話を聞いていた」と手ごたえを話した。

合同説明会に先立って、元サッカー日本代表の森山泰行さんが、「教師を目指す君へ～あきらめない心で夢の現実へ～」と題して講演を行い、自らの教員免許の取得や選手時代のエピソード、現役引退後の指導者としての活躍などを披露して、受験生を激励した。

温度計ステッカーが完成(7/11)

この夏の節電を促進しようと、本学は冷房温度の目安が分かる温度計ステッカーを作製し、7月11日（月）から学内外で配布を始めた。

ステッカーは、手のひらサイズで、表面には「愛知教育大学は、環境エコキャンパスを目指します」の宣言とともに、数字で温度が表れ室温が一目で分かる温度計と、温度の目盛り「冷房時の室温の目安」「暖房時の室温の目安」が日本語と英語で表記され、全面に第一共通棟の緑のカーテンの写りがあしらわれている。裏面はステッカーで、エアコンのコントロールパネルなどに張ることができる。

今回制作したのは1500枚で、各教室や事務室などに張られ、冷房の目安に利用される。



クリーン作戦(7/12)



生協学生委員と教職員が机の清掃などを行う「クリーン作戦」が7月12日（火）昼休みに第一共通棟で行われた。

クリーン作戦は生協学生委員の呼びかけで、年に数回実施されている。今回は夏休みを前にしたこの時期に開催、学生や教職員約30人が参加し、1～3階の教室を回って机の中のゴミを回収した。

集まったのは、授業のレジュメなどのプリント、ペットボトル、飲み物やお菓子の包装容器、ペンなどゴミ袋20袋分。タオルや団扇など、この時期ならではの忘れものも多数あった。

参加した学生は「ゴミを集めて、スッキリした気分」と話す一方で、「僕らがゴミを集めても捨てる人がいる限りなくならない。ゴミを捨てないようにする呼びかけも必要だと思う」とゴミ処理のモラルを問う意見も聞かれた。



本学と愛知県内教育関係者懇談会(7/13)



本学と愛知県内教育関係者懇談会が7月13日(水)、名古屋市内で開催された。会には県教育委員会の加藤千博義務教育課長、金原宏教職員課主幹、名古屋市教育委員会の森和久教職員課長、県、三河、尾張、名古屋市の各小中学校校長会会長らが出席。本学からは松田正久学長、折出健二理事はじめ各理事、特別学長補佐、学系長らが出席した。

冒頭、松田学長が「国が混迷する中で、新しい日本を築いていくためにも教育が大事だと思います。教員養成大学の視点で、先生方から忌憚のないご意見をお伺いしたい」とあいさつ。教育関係者を代表して加藤課長は「愛教大には生き生きとした教育活動があります。また、教員免許更新講習、教職大学院で大学のご支援をいただいています。今後も優秀な教員の輩出に期待したい」と述べた。~

折出理事が司会進行を務め、松田学長が本学の現状と課題を報告。白石理事、都築理事、岩崎理事、一宮特別学長補佐がそれぞれ財務状況、学部・大学院の入試及び就職状況、共同大学院博士課程設置、教員免許得更新講習などについて資料に基づいて説明した。休憩を挟んで、意見交換に移り、教育関係者からは「(卒業生の)教員への就職率の今後の見通しは」「学生の質、能力をさらに高めるよう指導してもらいたい」「教育実習期間を4週間から3週間に減らせないか」「教職大学院に現職教員を送りたいが、学費負担が重く入学を見送るケースもある」「災害ボランティアの予定は」など熱のこもった質問、意見が出され、学長らが答え、約1時間半の会を終えた。



安全衛生教育講習会(7/13)



職場の安全衛生を考える「安全衛生教育講習会」が7月13日(水)午前、第一会議室で行われた。

対象は2011年度新規採用者と2010年度事務職員採用者で、新任職員への安全衛生教育研修は今回が初。この日は20人が参加した。

最初に、保健環境センターの久永直見特別教授が、「職員の健康・安全・快適は、愛教大が国民のニーズに応えるための基礎。新任職員は、将来の愛教大を担う存在である」などと研修の背景や目的などを説明。続いて、厳しくなる労働や大学における安全衛生、本学における安全衛生の課題などを、調査結果などを交えて解説した。職場で高まるストレスや、机といすや照明などの作業環境の具体例も示され、受講者は熱心に耳を傾けていた。

また、同センターの榊原洋子講師からは、本学における薬品の取扱いの方法や管理などについても紹介された。

研修終了後も講師に、気になる職場環境について質問する姿も見られ、職員たちの安全衛生への関心の高さが伺われた。

トヨタ系企業との意見交換会(7/13)

トヨタ系企業との連携のための意見交換会が7月13日(水)午後、企業の連携事業担当者、本学の学生や教職員が計40人余出席して、第五会議室で行われた。

この日は、トヨタ企業との連携の道を探る2回目の意見交換会。スポーツ系、文化系のクラブ・サークルの代表者が、自己紹介を兼ねて企業と連携して行いたいことをそれぞれ発表。運動



部系のクラブ・サークルからは、企業チームとの合同練習や技術指導の要望が出された。また、企業側からは、イベントやボランティアの参加の要望などが挙げられた。話し合いの中で協力関係ができそうな懸案が見つかり、今後は何をどのようなかたちで進めるかを協議していくことを確認し、最後に学生と企業関係者が

名刺を交換した。

その後、企業関係者と教職員による意見交換が行われ、各課・各課程でどのような連携ができそうかについての話し合いが持たれ、「出来ることから、進めていく」ことで一致して、この日の会は終了した。



災害ボランティア研修会(7/14)

災害復興ボランティア研修会が7月14日(木)午後、第一共通棟で開催された。



東日本大震災直後から現地で支援活動を続けてきた日本福祉大学(愛知県美浜町)の原田正樹学長補佐が講師を務め、同大の災害ボランティアセンター事務局次長で社会福祉学部3年生の中村美穂さんも、ゴールデンウィークに福祉避難所となっていた老人福祉施設で行った支援活動の経験を話した。8月から被災地で支援活動を始める予定の本学学生、教職員ら約80人はメモをとるなどして二人の講演を熱心に聞き入っていた。

都築繁幸理事から紹介を受けた原田さんは「3.11→7.11」と記した日付を示し、4カ月で被災地がどのように変化したのかを、写真を見ながら説明。「仙台駅周辺は普通で、車で20分ほど行った沿岸部はまだ大変な状況で、わずかな距離の違いで温度差がある。3月20日に現地入りしたが、50人中44人が死亡した特別養護老人ホームは悲惨だったが、今はがれきも撤去された」と変化の大きさを強調。中村さんは「車が建物の中などあり得ないところにあった。思い出探しとして泥の中から大事なものを探したが、健康保険証や孫の写真を見つけた時は涙が出てきた。何かしたいと被災地に行ったが、逆に被災者が気を遣ってくれるなど支援された面もあった。1週間いて体調を崩したが、食事と睡眠は十分とるように心がけてください」と述べた。

原田さんは①被災地の観光名所や歴史などを勉強していくと話題づくりに役立つ②どんな被害があったのか、被災者に聞かない③自己責任、自主性を大切に④被災者の気持ちに寄り添い傾聴と共感につなげてほしい⑤(無力感など活動で感じた)ストレスを貯め込まず、仲間で語り合い、情報を共有することが大事—などとボランティアへの具体的なアドバイスを行い、最後に活動について「出会いは宝物になるし、人間の優しさとたくましさに触れ、新しい自分の発見にもつながる」と会場の学生を激励、約2時間の研修会を終えた。



お知らせ・報告・投稿

催しもの案内

◆うるし造形展

7月16日(土)～24日(日) 10:00～17:00 水曜休館

刈谷駅前商店街 駅前ギャラリー「スペースAqua」

UNOセレクションの第3弾。本学OBによる展覧会。伝統にとらわれない新しい漆器の魅力を紹介。

問い合わせはTEL 0566・23・3678

◆第64回愛知教育大学天文台一般公開

7月23日(土) 18:00～20:30

自然科学棟5階、屋上天文台

18:00 天文ミニ講演会「宇宙の交通事故」、19:00 天体観望会、Mitakaによる「3D宇宙の旅」

詳細は天文台ホームページを参照。

<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/index.html>

◆小中英語教育講演会・シンポジウム

7月24日(日) 10:00～17:00

第一共通棟1階

詳細は小中英語支援室ホームページを参照。

<http://www.aue-english.aichi-edu.ac.jp/index.html>

◆夏のランチコンサート

7月27日(水) 12:30～13:00

附属図書館2階 アイ♥スペース 入場無料

音楽教育講座2年生、3年生合唱選択者

曲目:「見上げてごらん夜の星を」「大地讃頌」ほか

編集後記

「なでしこ、世界一!」。サッカー女子ワールド杯で日本チームが17日、世界一の快挙を達成しました。世界ランキング1位のアメリカを相手に、粘り強さとチームワークの良さで善戦。その勇姿は眩しく、力強く、美しく、普段はサッカーファンでない私も思わず感涙していました。ましてや震災の被災地の皆さんには、どんなに大きな励ましになったことか、と思うとまた胸が熱くなります。愛教大も来月初旬からいよいよ被災地へボランティアを派遣します。現地へ行く人も行けない人もチームワークよく、根気よい支援をすることで教育復興になると信じています。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二